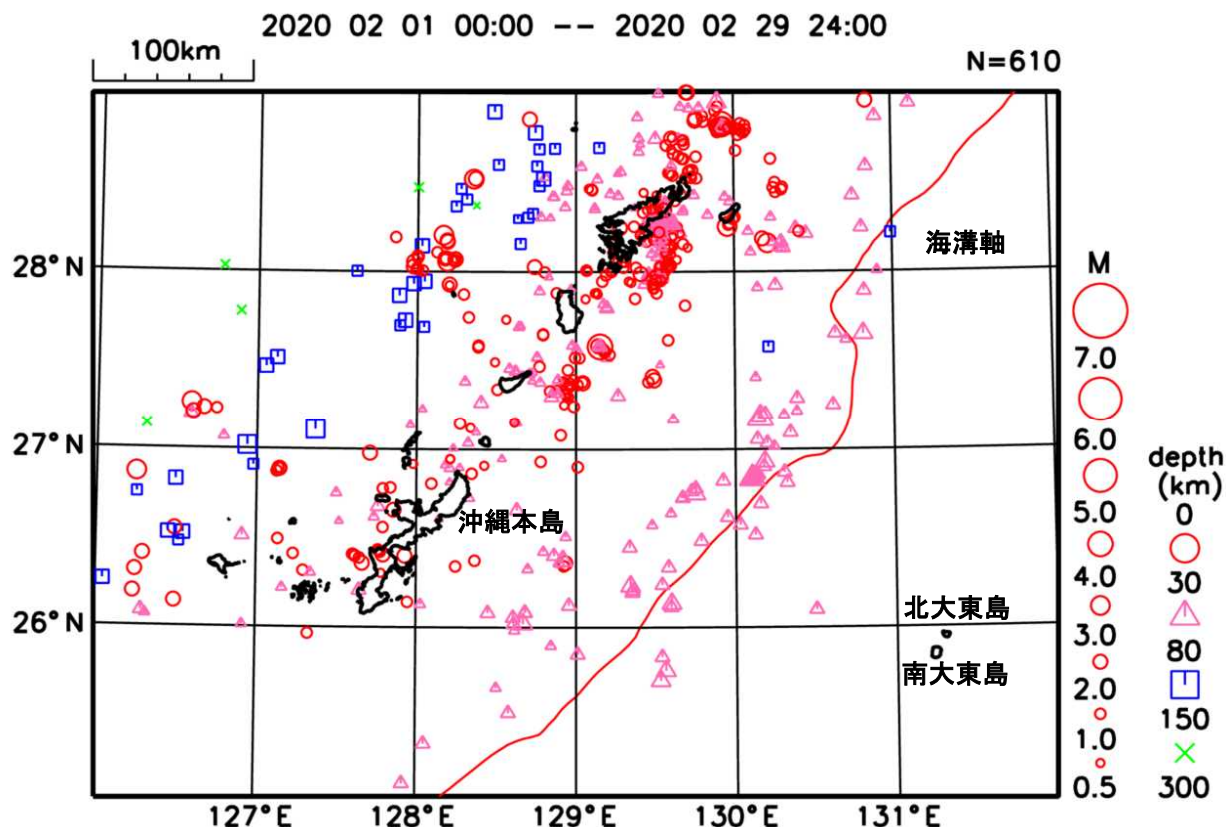


地震活動図

2020年2月

南大東島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

大東島地方及び沖繩本島地方で震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

[概況]

今期間に、大東島地方及び沖繩本島地方とその周辺（図の範囲内）で観測した地震は610回（1月891回）で、このうちM4.0以上の地震は4回（1月5回）でした。

また、震度1以上を観測した地震は、大東島地方（1月0回）及び沖繩本島地方（1月5回）ともにありませんでした。

※ 資料中のデータについて

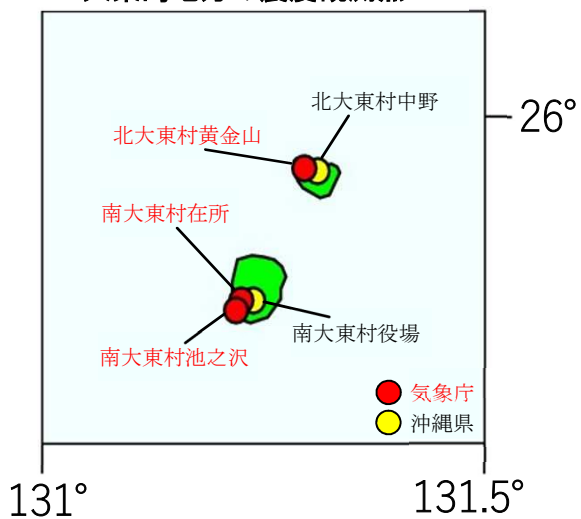
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国家間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



気象庁
Japan Meteorological Agency

本件に関するお問い合わせ先
(南大東島地方気象台)
電話 09802-2-2006
<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

地域の海拔と避難場所を確認しよう

津波が起こっても迅速に避難ができるように、避難場所や避難経路の確認をしましょう。特に、4月になり就職や進学で新しい土地で生活を始める方は早めに確認することが重要です。

＜居住地の海拔を知っておくことが大切！＞

住んでいる地域の海拔を確認しましょう。電柱や公共施設に設置されている海拔表示を参考にすると便利です。

海拔表示の例



＜津波標識で避難場所の確認を！＞

津波標識

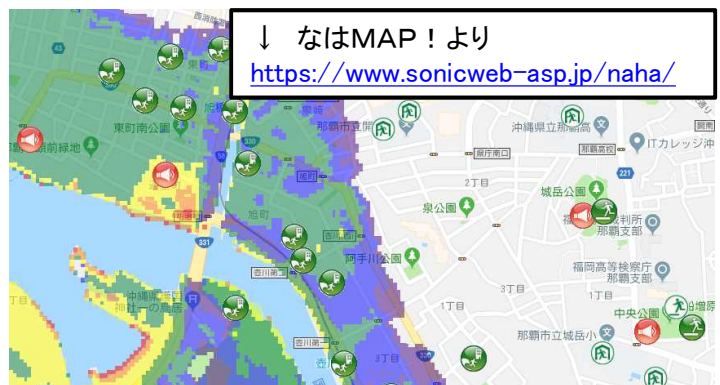


津波が来襲する危険性がある地域には、津波標識が掲示されています。津波に対して安全な避難場所や避難ビルを確認しましょう。

＜避難場所と避難経路の確認を！＞

自治体が作成した防災マップを参考にして、避難場所と避難経路を確認しましょう。

避難経路を実際に歩き、危険箇所や所要時間が分かると冷静な避難行動に繋がります。



過去の防災一口メモは沖縄气象台ホームページで確認

沖縄气象台ホームページURL <https://www.jma-net.go.jp/okinawa/know/memo/sougou.html>